

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700179		
法人名	株式会社アッセンブルピープル		
事業所名	グループホームふぁみりあ		
所在地	山口県下松市藤光町一丁目12番18号		
自己評価作成日	令和4年2月2日	評価結果市町受理日	令和4年6月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年2月24日		

入居者本人の能力や理解力の低下に伴い、様々な状態や場面に対応できるよう職員ごとの介護力や技術を上げることが目標に日々精進している。入居者のおかれている状態やその背景を理解しつつ、現状に即した対応が臨機応変にでき、ほかの職員と情報を連携しつつ、必要に応じて医療機関等に相談・連絡して適切な介護を行えるよう助言を得て、また家族へはLINE(SNS)を通じて写真や動画、その他情報を即日配信して、入居者の様子を伝えたり、これからの状況を予想しながら、一緒に検討できるように配慮している。コロナ禍で、直接の面会は当面難しいことを相互理解しながら、今できることをできるだけ行うように、職員一丸となって毎日対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出が困難な中にありながらも、利用者が四季や外出気分を味わってもらえるように、多くの支援に取り組んでおられます。プランターや畑を利用して、利用者と一緒に季節の花や野菜(さつま芋、スナックエンドウ、インゲン豆、苜、ネギなど)の栽培をされ、摂れた野菜は味噌汁やおやつになって食卓に上がります。利用者全員で、季節の壁画(桜、鯉のぼり、カエル等)づくりをされ、壁面に飾られて楽しんでおられます。テレビの風景番組や旅行番組を見て、懐かしい場所や思い出を語り合われたり、室内で季節行事(お正月行事や節分、お雛様等)を実施されるなど、多くの工夫をされる中で、利用者の皆さんは安心して穏やかに四季を感じながら過ごしておられます。コロナ禍の中、面会ができない家族に、ラインを活用され、利用者の日常の様子を画像や動画を送信されています。家族からは「とてもわかりやすい」、「状況や表情がよくわかる」、「笑顔を見て安心、嬉しかった」と、状況がわかりやすく、タイムリーな情報の提供に、感謝と労いを寄せられています。事業所では、職員の立場や経験、習熟度、希望等に応じて職員の研修機会が増えるように取り組まれており、外部で実施の研修を「ウェブ研修」として、勤務時間内に学習できるようにされ、職員全員の質の向上を目指すとともに、利用者の状況をふまえて、「支えるだけでなく寄り添うケア」になるよう、話し合われて、研鑽を積んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26) ○	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20) ○
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39) ○	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21) ○
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39) ○	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5) ○
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39) ○	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13) ○
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50) ○	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32) ○	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示している。 管理者のこれからの思いを仕事中や会議で共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、職員も来訪者も通る玄関に掲示して常に確認できるようにしている。管理者と職員は、毎月のミーティング時に理念について話し合っ共有し、カンファレンスやサービス計画会議では、利用者の状況をふまえて、「支えるだけでなく寄り添うケアになるよう」に話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会は中止している。 情報は各家族とのLINEで情報交換している。 挨拶の励行や自治会総会へ参加している。	自治会に加入し、総会に出席して地域の情報を把握しているが、コロナ禍の為、行事は中止となっている。事業所でも地域の人に参加できる行事を中止し、ボランティアにも待機してもらっている。利用者は、毎月来訪している馴染みの理容室を活用している。敷地内の散歩時や事業所の畑で畑仕事(芋ほりやネギをとるなど)をしていると、地域の人が声をかけてこられたり、花や野菜、果物(大根や柚子等)、旅行のお土産の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人へ発信する力が弱いように思い、事業所内の様子や困りごとを発信できるよう、IT技術を活用する方法を模索している。(YouTubeのような専用チャンネルを開設してLIVE配信や相談会を行うなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今までの評価を見返し、改善できる点を会議で取り上げ、具体的に改善するよう取り組んでいる。	管理者はミーティング時に、評価の意義や理解が不十分な評価項目について詳しく説明をしている。自己評価の書類を職員全員に配布し、記録後にリーダーと二人でまとめている。職員は自己評価を通して日々のケアを振り返っており、外部からの評価(アンケート結果等)に関心を示すようになってきていると管理者は感じている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、内部研修の中で「緊急時の対応と応急手当」や「感染症対策」について学習し、感染予防(換気方法、三密回避、マスク着用、手洗い方法、定期的消毒)について実践研修を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は中止している。	会議はコロナ禍の為、文書送付による開催としている。2か月毎に年6回、利用者の状況と職員の研修、地域活動、ヒヤリハット、事故報告、外部評価の対応、災害訓練等について報告書を送付し、併せて、評価、要望、助言、その他の欄を記録した「意見書」を同封し、返送してもらっている。意見書の内容はまとめて会議メンバー全員に配布している。メンバーからは、災害時の対応方法や実践準備について、ヒヤリハット報告について状況毎の対応策を検討し評価、修正して対応すること、外部研修や内部研修について、ワクチン接種、コロナ禍への労い等があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や計画作成者が中心となって市町担当者と連絡を取っている。国や市からの通達は社内連絡網ですぐに発信し、勤務時に確認している。 事業所の実情は、市来庁時を利用して担当者へ伝達している。	市担当者とは、運営推進会議や電話、メール、直接出かけて情報交換や相談をして助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や電話で情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員はいなかった。 社内会議などで、身体拘束について具体的に正しく理解できるように説明し、独自のチェック表で自己チェックを行っている。	職員は「身体拘束等の適正化のための指針」をもとに年2回、内部研修で学び、毎月、独自に作成した「ケアを振り返るアンケート(自分の評価)」と2月と8月に「虐待の芽チェックリスト(事業所全体の評価)」を実施する中で、身体拘束や虐待の内容と弊害について正しく理解している。「身体拘束等適正化委員会」は運営推進会議と同じメンバーのため実施していない。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば職員が敷地内を散歩して気分転換を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等をウェブ配信で受講する予定である。 日ごろから、虐待防止は努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修等に参加した管理者および職員は理解がある。成年後見制度を利用している入居者がいるため、その弁護士へ請求書等を送付している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に面談し、説明している。 不安や疑問点がある時は、家族ごとのLINEで相談を受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情を受けた時は、管理者が受付けている。又は職員から報告を受け、文書等でほかの職員へ周知している。その内容について検討し、変更改善できることは速やかに対応している。	苦情相談窓口や担当者、第三者委員、処理手続きを明示し、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議時に聞く他、電話やメール、ライン、手紙でも聞いている。意見や要望は「苦情相談要望書」や連絡帳に記録するとともに、ラインで職員に知らせて共有している。毎月、分かりやすいように、写真と動画を付けてライン(平均月2回以上)をし、苦情や相談が言いやすいように取り組んでいる。家族からは「写真や動画入りのラインで知らせてもらいとても分かりやすい」「状況や表情、事情がよくわかる」「笑顔を見て安心、嬉しかった」「日頃見られない状況がよくわかった」など、タイムリーな情報に感謝と労いが寄せられている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や業務中に職員の意見をきき、会議等でその意見や提案を説明している。(料金改定や労働者の処遇改善に関する情報を発信し、事業所としての対応を説明している)	管理者は、毎朝のミニミーティング時や月2回のミーティング時、担当業務(園芸、備品、レクリエーション、印刷)の中で聞く他、6か月毎に個人面談を行って聞いている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、日頃から管理者の方から言葉をかけて、話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からも積極的に相談があり、管理者(運営者)と職員との垣根がとても低くなっている。職員からの意見や提案は「グループライン」に記録して職員間で共有している。職員からは、サービスに対する自身の考え方や方法についてや希望休についてあり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回程度の個別面談を行っている。随時、話し合いの機会を設けている。職場環境や条件整備を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、職員へ研修を受講させた。社外研修は、リスクの少ない時期のみとした。ウェブ研修を中心に、資料やその感想を閲覧できるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度はセミナーパークでの「感染症対策研究会」と「BCP策定セミナー」に各1名が受講している。受講後は「受講報告書」を回覧し、内部研修の中で伝達してもらい、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員が共有している。セミナーパーク等、外部で実施の研修を「ウェブ研修」として勤務時間内に学習できるようにしている。内部研修は、年間計画を立て、管理者が講師となって、災害訓練と事業継承計画についてや身体拘束と虐待、社会人としての心得(個人情報管理、挨拶、接遇等)を実施している。感染症予防(換気方法、三蜜回避、マスク着用、手洗い方法、定期的消毒)について、実践研修を実施している。新人職員は、日常業務の中で、管理者や先輩職員の指導を受けて、介護の知識や技術を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ウェブで対応している。(グループホーム協会など) ウェブであっても集まりの日程が自社の勤務決定後である場合、欠席できないことがあった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度の新規入居者は2名であり、本人の情報を計画作成者がセンター方式で収集しながら、職員が聞き出したことをまとめている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とLINEで情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やその家族、以前のケアマネジャーから情報を得て、必要な支援をまとめ、計画書を作成しながら、家族から同意を得ている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自己選択に基づき個人の尊厳を守れるように、職員が顔見知りの関係を早期に築けるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人がLINEや窓越し面会で出会えるように援助している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接の面会ができない代わりに、窓越し面会や電話、手紙で交流を続けてもらうように説明している。	家族の面会（ドア越しでライン電話を使って15分間、ビデオ、ラインなど）の他、携帯電話や手紙での交流を支援している。毎月、馴染みの理容院から理容師の来訪があり、全員が利用している。馴染みの季節行事（節分、雛祭り、ミニクリスマス）や旅行番組を見て、思い出話をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に気を配り、相互の関係が良好になるよう職員が間に入って説明したり、その関係を傍で見守るなどして支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等からの要望があれば、相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から以前の暮らしの様子を聞いたり、日々の本人との会話の中で、本人の希望や思いを聞くようにしている。センター方式を使用している。	入居時には、センター方式のシートを活用して、本人や家族のこれまでの暮らしの状況や長年馴染んできた習慣や趣味、好きなこと、嫌いなこと、得意なことなどを聞き取り、思いの把握に努めている。くつろいだ入浴時等、日々の関わりの中で、利用者の発した言葉や、行動、表情、希望等を介護記録に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用している。 本人や家族から聞き取り、把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用している。 本人や家族から聞き取り、把握している。 本人の能力に合わせて、観光を整えている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回以上のサービス担当者会議を開催して、情報を共有している。 計画作成者は、その内容を介護計画に反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心になって、日々、「グループライン」を活用して家族からの情報を把握、交換し、毎月、「サービス担当者会議」を開催して、利用者や家族の思いや意向、主治医や歯科医師、薬剤師の意見を参考にして、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループLINEで情報を共有している。 「介護健康記録」や「排泄・水分チェック」などの専用帳票を必要に応じて改良して、情報が速やかに共有できる工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者および計画作成者が窓口となって対応している。 家族とのLINEで情報交換している。対応できることを柔軟に検討して取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員は地域資源を知ることが少ない。 職員による入居者本人の残存能力の見極めは出来ているので安全で暮らしている。しかし、入居者本人の希望はだんだん少なくなっているため楽しんで暮らしているかは不明なことがある。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な、内科および歯科往診を受けている。 職員が気になることや体調不良に気が付いたとき、主治医である内科医へ連絡し指示を得ている。	利用者や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診支援をしている。歯科は1か月に1回の往診があり支援している。その他の他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。薬剤師は月2回、処方薬を持参し、職員は服薬指導を受けている。結果は「通院介護記録」や「業務日誌」、「健診結果記録」に記録して、職員間で周知、共有している。家族には毎月、健診結果を記録した「モニタリング報告書」を送付している。夜間や緊急時には協力医療機関に連絡をして、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職の配置はないが、資格保有者が在籍している。その職員へ相談しながら対応している。その他の場合は、主治医の診療所の看護師に相談して対応の指示を得ている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者および計画作成者が窓口となり、関係者と情報交換及び相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者および計画作成者が、本人及びその家族へアドバンスドケアプランについて話し合い、希望を聞くようにしている。家族へは病院への入院や施設への移動があることを納得してもらい、必要な働きかけを依頼している。	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移送も含めて、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	入居者本人の行動を予想把握しながら、危険を防止できるように対応している。訓練が少ないので、過去事例を参考に研修の機会を設けたい。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書に発生場所や状況、原因、経過、今後の対応、課題等を記録し、管理者の意見を添えて職員に回覧し、ラインで周知している。ミーティング時に再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。内部研修で感染症予防対策や緊急時の対応について学び、感染症予防(換気方法、三蜜回避、マスク着用、手洗い方法、定期的消毒)の実践研修を実施し、実践力が向上するように取り組んでいる。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や、事業所内にハザードマップの掲示をしていることで意識を高めている。BCP計画書の作成を職員と一緒に開始している。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜間の火災を想定した、通報訓練や避難訓練、避難経路の確認、消火訓練、防災機器の使い方を利用者也参加して実施している。地域との連絡体制を築くための連絡網やBCP(事業継続計画)計画の作成に取り組んでいる。災害時の非常用食品(食料と水)は備蓄している。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者本人ごとに理解できるわかりやすい用語を使用するように努め、場の雰囲気にあった丁寧な対応を心掛けている。	職員はミーティング時の研修(接遇、プライバシーや個人情報についての徹底)や管理者の「個人を特定した話し方をしないこと」の指導を通して学び、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報は適切に管理し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が話できる、話が広がるように、職員は工夫、配慮している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日課の中で、入居者ごとにできることに参加している。出来ないことはできるように工夫している。体調不良で難しい時は、無理せず出来るときにしてもらっている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が、自由に選んでいる。自分の意思が表しにくい人は、職員が声をかけたり思いをくみ取って一緒に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は楽器演奏の音楽をかけたり、映像を流すだけにしている。献立内容を説明して興味を引き出すようにしている。消毒等は職員が行い、協力してもらう。	食事は部分調理が必要な配食を利用し、ご飯と汁物は事業所で作っている。畑で収穫した野菜(さつま芋、スナックエンドウ、インゲン豆、ジャガイモ、苺)や職員が持参の野菜で一品加えている。食べやすいように形態の工夫(刻む、とろみをつける、粥状)や食器の工夫、盛り付けの工夫をして提供している。利用者は皮を剥く、切る、混ぜる、盛り付ける、並べる、お茶のパック詰めなど、できることを職員と一緒にしている。食事中は静かにBJMを流し、職員も同じテーブルについて食べている。おやつづくり(ぜんざい、お汁粉、ゼリー、ブルーチェ、蒸かし芋、パンプキンケーキ)やケーキの付く誕生食、毎月1回お弁当の日(利用者が盛り付ける)、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、クリスマス、年越しそば)、大根の浅漬け作り、利用者が野菜(キャベツや大根等)を千切りにして冷蔵保存し、朝の味噌汁に利用するなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が入居者ごとの状態を把握している。食事摂取などが一人では難しい人は、職員が介助している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医および歯科衛生士からの指示を得ている。職員が入居者ごとの状態を把握している。口腔ケアが一人では難しい人は、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が入居者ごとの状態を把握している。排泄の失敗がないように、職員が間隔を見極め必要なパンツを着用する工夫している。トイレの移動、移乗が一人では難しい人は、職員が介助している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導、移乗の介助をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な間隔で排便できるように、主治医の指示のもと下剤服用を少なくしている。 1日の水分量を確認している。 本人の体調を見極め必要に応じて運動を働きかけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回程度の入浴の機会を設け、入居者本人の状況に合わせた対応している。 職員との1対1の会話を楽しみ、いつもは離せないような本人の思いや希望をきいている。	入浴時間は14時から16時までの間とし、週2回は入浴できるように支援している。順番や湯加減、好みの石鹸、季節の柚子湯など、一人ひとりの希望に合わせて、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴時にはくつろいだ中で、利用者はやってみたくことや行きたいところ、これまでの懐かしい思い出などを職員との会話の中で話すことが多く、利用者の思いを把握できる良い機会となっている。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や手浴、シャワー浴と足浴の併用、部分浴、シャワーキャリーやシャワーチェアの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態によって対応している。 入居者本人が気持ちよく眠れるように、居室内温度を確認し寝具等を配慮している。 寝具等で足が絡まないように、安全に配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導(薬剤師)を受けている。 介護健康記録に服薬漏れを防ぐチェックしている。服薬リストを見やすい場所に設置し副作用等について、不安な時は薬剤師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や季節の行事などを入居者と一緒に楽しんでいる。その様子を写真や動画を撮影して、後日、入居者やその家族と共有して見て楽しんでいる。	掃除(はたきをかける、箒で掃く、モップかけ)、手すりを拭く、テーブルを拭く、リネン交換(枕カバー、敷きマット、シーツ、布団カバー)、洗濯物干し、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、花を生ける、花瓶の水を換える、メダカの餌やり、プランターや畑に種まき、苗植え、水やり、草取り、野菜の収穫(さつま芋、スナックエンドウ、インゲン豆、苺、ジャガイモ)、雑巾を縫う、繕い物、広告でゴミ箱づくり、テレビやDVDの視聴、CDやラジオを聞く、新聞、雑誌、本を読む、写真集を見る、折り紙、ぬりえ、切り絵、干支の貼り絵、書初め、俳句をつくる、七夕の短冊づくり、絵を書く、歌を歌う、季節の壁画づくり(雛祭り)、かるた、トランプ、神経衰弱、カレンダーづくり、双六、福笑い、パズル、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、口腔体操、早口言葉、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、四字熟語、間違い探し)、言葉遊び、季節行事(書初め、節分の豆まき、雛祭り、敬老会、ミニクリスマス会、忘年会等)など、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援をしていない。 敷地内や居室で日光浴をした。廊下を使用して歩行練習をしている。 テレビやYouTubeなどで旅、風景番組と一緒に見て、思い出を語り合った。	敷地内の散歩や外庭での外気浴や日光浴、プランターや畑に苗植え、水やり、草引き、野菜の収穫(さつま芋、スナックエンドウ、インゲン豆、苺、ジャガイモ)に出かけている。外出はできないが、季節を感じてもらえるように、花や野菜の栽培、季節の壁画づくり(桜、鯉のぼり、かえる、海の生き物、紅葉、イチョウ、クリスマスリース、干支)に利用者全員で取り組んでいる。旅行番組や季節の風景番組を見て、思い出を懐かしむなど工夫をして、利用者の希望と気分転換を兼ねて、外出気分を味わってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解ができる人が少なくなり、ほとんど買い物支援をしていない。 数の計算などの練習をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したり、手紙を書いたりしている。その支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激を与えない環境になるように、日々整理整頓している。 温度や湿度に配慮して、居心地よく過ごせるように配慮している。 季節に合わせて入居者と作った作品を掲示している。	リビング兼食堂は天井が高く、広々としており、自然光が差し込んで明るい。室内には食卓テーブルと椅子、大型テレビやカセットデッキ、空気清浄機等を設置している。三密に配慮して、椅子の向きや使用物品の配置に留意している。厨房からはご飯の炊ける匂いや調理の音がして、生活感を感じることができる。壁面には利用者と職員が一緒に作った、利用者の大好きな「鬼滅の刃」の立体貼り絵や季節の壁画(雛祭り)が飾ってある。室内の温度や湿度、換気、清潔に配慮し、定期的に消毒をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたいときは、一人になれるようにしている。様子を見ながら席替えをしている。 レクリエーションの時は、席の位置を変えたり、気の合った人同士で話ができるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものを飾り、入居者本人が自室であると理解できるようにしている。	携帯ラジオやテレビ、携帯電話、籐の五段衣装ケース、筆筒、時計、筆記用具、化粧品等整容道具、眼鏡、手押し車、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダー、プリザーブドフラワーを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮して、危険なものは排除している。 表示は誰にでもわかるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームふぁみりあ

作成日: 2022(令和4)年5月14日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備えとして、応急手当や初期対応について経験不足や技術不足がある	ヒヤリハットの報告書を活用し、応急手当の方法を実践例を参考に身につける	年1回以上の応急手当の研修で、その技術を身につける 消防訓練時に災害時の初期対応を検討し、問題点を把握しておく ヒヤリハットや事故報告書を活用して、事例検討会を行う	12ヶ月～
2	36	災害対策の不足	地域との協力体制の構築	運営推進会議や自治会総会の時に、協力を仰ぎ、災害時などの緊急時に協力が得られるように相談する	12ヶ月～
3	37	入居者の一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応を配慮していない時がある	入居者ごとのおかれた状況を全職員が的確に把握する 一人の人としての尊重する言葉かけや対応をする	サービス担当者会議で入居者の状況を報告し全職員でその情報を共有する 全職員が入居者の理解力やおかれた状況を十分に理解し、わかりやすい言葉かけや対応をする 個人情報の取り扱いは適切に管理する	12ヶ月～
4	3	事業所の力を生かした地域貢献が少ない	地域への発信力が弱いと思い、事業所内の様子や困りごとを発信できるよう、IT技術を活用する	YouTubuのような専用チャンネルを開設してLIVE配信や家族と事業所の相談会ができないか検討する	6ヶ月～
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。